

# 明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信

# No.27

2013年1月1日発行



東京駅（2012年10月10日撮影）

御遠忌テーマ **今、いのちがあなたを生きている**



今、いのちがあなたを生きている

**真のよりどころを  
求めて**

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要



27日逮夜法要(御伝鈔拝読)



28日日中法要

二〇一二年

# 本明寺報恩講

十月二十七日(土) 二十八日(日)

◆報恩講お手伝い

報恩講をお手伝いしていただいた方々をご紹介します。

- |    |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|
| 川瀬 | きぬゑ | 郡司  | 三郎  |
| 佐藤 | 慶子  | 高田  | トヨ  |
| 高野 | 勢津子 | 宝田  | 満男  |
| 滝口 | 泉   | 滝口  | 和彦  |
| 根岸 | 千栄子 | 早矢仕 | 昌治  |
| 横澤 | 正克  | 横山  | ナヲ  |
| 若井 | 武久  | 和田  | 富士子 |
| 渡邊 | 京子  | 渡邊  | 憲章  |
- (五十音順・敬称略)

お手伝いいただき、ありがとうございます。ございました。なお、今後お手伝いいただける方がおりましたらご連絡ください。



◆おみがき奉仕のつどい

十月二十日(土)

おみがき奉仕のつどいにご参加された方々をご紹介します。

川瀬	きぬゑ	君塚	保子
滝口	泉	本田	有希
本田	唯果	本田	彰一
本田	信子	横山	ナヲ
渡邊	京子		

(五十音順・敬称略)

お手伝いいただき、ありがとうございました。

次回は二〇一三年五月十九日(日)に行います。



# コラム

## 「国土をめぐる問題から

### お念仏へ」

今、テレビのニュースや新聞などでは、尖閣諸島、竹島、北方領土といった日本の国土をめぐり、国際問題になっていることが伝えられています。私自身も日本の対応や隣国の対応に、どこか腑に落ちない思いをしながらニュースを見ています。

今回は、この国土をめぐる問題を、浄土真宗の教えを聞く私の問題として考えたいと思います。

浄土真宗にも大切な国土があ

ります。それは「浄土」という国土です。「浄土」とは阿弥陀仏が一切世界の人々を救おうと願い建てられた国土です。この国土は西方にあると譬えられ、清浄で争いなく平等な世界であります。多くの人はこの阿弥陀仏が建てられた「浄土」に救われたいと願い「南無阿弥陀仏」と念仏を申しているのではないのでしょうか。

もし私たちが今のまま、念仏を申して阿弥陀仏の「浄土」に生まれたら、どのような「浄土」になるのでしょうか。おそらくは、阿弥陀仏が建てられた「浄土」においても「ここは私の領土である」と言い、自分中心に他者を排除し、奪い合い、争い合いが起こるのではないのでしょうか。「浄土」は阿弥陀仏が一切世界の人々を救おうと

願い建てられた国土であるのに、私たちは我が物顔でその「浄土」を私有化してしまうでしょう。今私たちが「浄土」に生まれたとしても、私たちの世界となんら変わらない世界に成り果ててしまうのではないのでしょうか。

私たちは、この国土をめぐる問題を通して、阿弥陀仏が建てられた「浄土」ですらも自分中心に他者を排除し、奪い合い、争い合う世界に変えてしまうほどの存在であり、阿弥陀仏の本願によっても救われ難い存在であることに気が付かされます。

しかし、その救われ難い存在であることの気づきが大切なのです。阿弥陀仏は、このように自分中心に他者を排除し、奪い合い、争い合う心がやむことのない私たちを

大いに悲しまれているのです。そして、そのような自分中心の私たちを救おうと願いを起こし、「浄土」という国土を建てられたのです。つまり、私たちが「浄土」に救われたいと願い「南無阿弥陀仏」と念仏を申す前に、すでに阿弥陀仏は私たちを「浄土」に掬い取るうと用きかけているのです。

「南無阿弥陀仏」によって救われ難い私に気づかされ、そして阿弥陀仏の大いなる悲しみに出会うのです。そこに「浄土」が開けてくるのです。「浄土」とは死後の世界とか西方にある世界というわけではなく、「浄土」は今すでに私に用いている世界です。

(東本願寺「真宗会館」テレフォン法話(二〇一二年十二月上旬)原稿より)



◆二〇一二年

十月十二日(金)

真宗ボランティア研修会

「お聖教の言葉を使ってボランティア活動を行わないことを正当化しているのではないか。また、お聖教の言葉を使ってボランティア活動を行うことを正当化しているのではないか」

十月十二日、真宗会館に於いて真宗ボランティア研修会を開催し

ました。講師に木越康氏(大谷大学准教授、真宗大谷派災害救援本部ボランティア委員会委員)をお迎えし、「真宗とボランティア」を講題として講義いただきました。教区内外から多くの方が参加され



木越 康 氏



ました。  
木越氏は「例えば（ボランテ  
アの活動）に対して、躊躇させる  
ようなものとしてある（真宗理解）  
の誤り」とサブ講題を付け、お話  
をされました。

（講義要約）

真宗におけるボランテア活  
動を行う意味、意義はないと思っ  
ています。またそれを問う必要も  
ないと思います。ボランテア活  
動を躊躇させるお聖教の言葉とし  
て『歎異抄』第四章があります。

聖道の慈悲というは、ものをあわ  
れみ、かなしみ、はぐくむなり。  
しかれども、おもうがごとくたす  
けとぐるごとく、きわめてありがた  
し。

この言葉を用いて、ボランテ  
アは聖道の慈悲である。もしくは  
自力であるという考え方を持っ  
ている人がいます。この考え方を他  
者から投げかけられてボランテ  
ア活動に躊躇するだけではなく、  
自分自身に投げかけてボランテ

ア活動に躊躇している場合があり  
ます。他者からの投げかけは、私  
に対する「ご心配」として受け取  
っておきましょう。しかし、自分  
自身に対する投げかけは取り払わ  
なくてはならないと思っています。  
その手掛かりとして『歎異抄』第  
十三章を考えてみたいと思います。

『歎異抄』第十三章には「造悪  
無碍」をめぐる二つの悲歎が書か  
れています。一つ目は「造悪無碍  
者（悪人成仏）であるから、意図  
的に悪事を行う者」への悲歎です。  
二つ目は「造悪無碍批判者（いく  
ら「悪人成仏」だからと言って悪  
事を犯してはいけないという、意  
図的に念仏者に行動を規制する  
者）」への悲歎です。『歎異抄』第  
十三章ではこの二つに対して悲歎  
しているのです。つまり、意図的

に悪事を行う者も、悪事を批判し意図的に行動を規制する者も、どちらも批判しているのです。『歎異抄』第十三章では「善行をなす。悪行をなす。どちらの行いもすべて宿業の催しである」と言っています。何かをする時にこれは善だ、これは悪だと先だって考えるのは分別であります。この善悪の分別を悲歎しているのです。

このことから、私たちはお聖教の聞き方を根本から間違えていたのではないかと思っています。お聖教の言葉を知識として聞いていくと、「造悪無碍」の2つの悲歎のように、知識が分別になっってしまうのです。

『歎異抄』第四章の「聖道の慈悲」については知識として多くの人が知っていることです。この「聖

道の慈悲」というお聖教の言葉を現場の言葉として聞いているでしょうか。現場に行き、そこにいる人びととの出会いの中で、お聖教の言葉に出会っていくのだと思います。他にも「地獄一定すみかぞかし」や「現前の境遇に落在せる」という言葉があります。これらの言葉も私たちが教える言葉ではなく、現場に行って私たちが教えられる言葉なのです。

これからはお聖教の言葉は知識として知るのではなく、お聖教を現場の言葉として聞いていくこと、「臨床的真宗の学び」が大切であると思います。

講義終了後に「腕輪念珠作り体験」を行いました。ボランティアにおいて「腕輪念珠作り」は仙台

仏青と現地復興支援センターを中心にを行っています。これからは同朋Nとしても「腕輪念珠作り」を活動の一環にしたいと考えています。

(同朋社会推進ネットワーク  
『しゃばネット』掲載記事より)



◆二〇一二年

十一月六日（火）

七日（水）

## 推進員のつどい

二〇一二年十一月六日、七日にかけて、同朋の会推進部門主催「推進員のつどい」が開催されました。新潟県妙高市赤倉温泉にあります赤倉ホテルを会場に今泉温資氏（新潟市往生人舎主宰）にご出講いただき、教区御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている、真のよりどころを求めて、」を講題にお話しいただきました。

今泉氏は赤倉ホテルの歴史の話に始まり、時にユーモアを交えながら、熱のこもった口調でお話されました。その今泉氏のお話に参加者全員引き込まれるように聞き

入っていました。今泉氏のお話の中で「相続はお金の相続だけではない。法義の相続、教えの相続を大切にしてほしい」ということがとても印象に残っています。

翌朝、赤倉ホテルで行われている「有縁講」に参加しました。赤



今泉 温資 氏

倉ホテルのロビーには大きなお内仏が安置されており、毎年十一月中に報恩講を「有縁講」として執り行い、東西本願寺分け隔てなく多くの方が参詣します。

二日目、講義終了後には長野県小布施の街を散策しました。

同朋の会推進部門は、ご門徒さんと一番近いところで行われている事業を受け持っています。自坊所属のご門徒の関係だけではなく、他のお寺に所属するご門徒の熱気を強く感じる事ができた「推進員のつどい」でした。

（『ネットワーク9』掲載記事より）



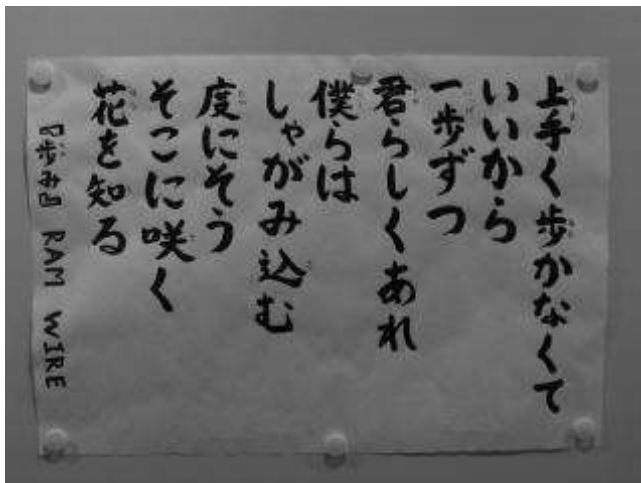
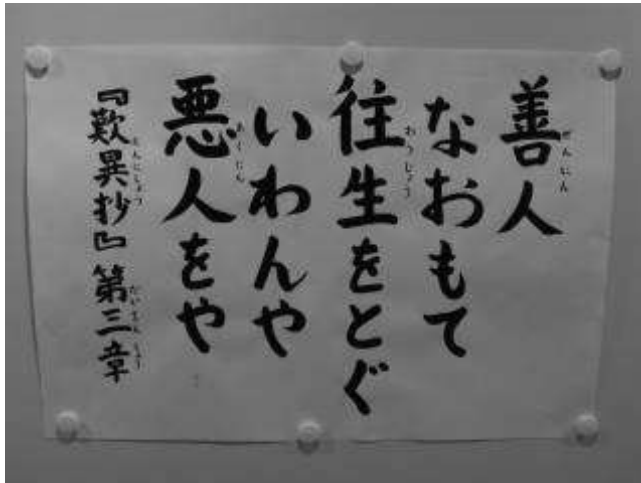
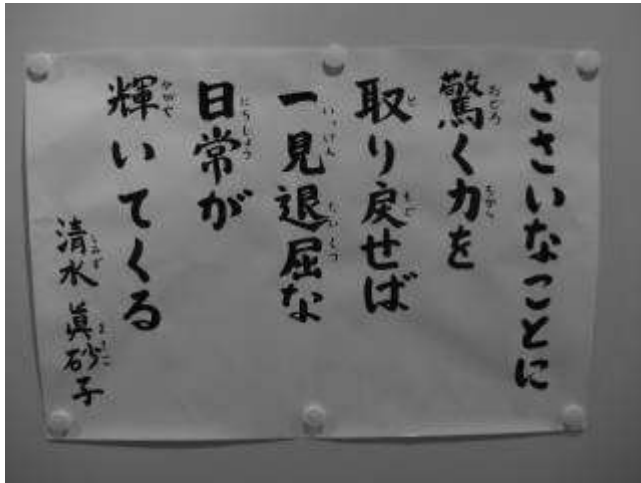


有縁講

## その他の歩み



- ◆ 十月三日（水）  
ネットワーク9 内部研修会
- ◆ 十月十三日（土）  
湾岸親鸞講座②
- ◆ 十月十四日（土）  
児連 子ども会
- ◆ 十月二十二日（月）  
青少年輪読会特別公議
- ◆ 十月三十一日（水）  
児連 秋の研修会
- ◆ 十一月二十六日（月）  
二十七日（火）  
本山（京都・東本願寺）  
報恩講出仕
- ◆ 十二月九日（日）  
児連 子ども会
- ◆ 十二月十五日（土）  
湾岸親鸞講座③  
などなど



お寺の掲示板

十月 十一月 十二月

十月

十一月

十二月



# 本明寺の予定

## ◆本明寺 花まつり(子ども会)

期 日：二〇一三年四月十四日(日)

日 程：13:00 受付

13:30 開会・お勤め・お話

14:00 ゲーム

15:00 おやつ

16:00 閉会

会 費：三〇〇円

対 象：どなたでも参加できます。

(でも、子どもが主役です)

※小学校二年生までは保護者同伴でお願いします。

四月一日は親鸞聖人の、八日はお釈迦さまのお誕生日です。

花まつり(子ども会)では、お寺でお話を聞いたり、遊んだりしましょう。ぜひ参加ください。

※日程は変更することがあります。

## ◆本明寺 おみがき奉仕のつどい

期 日：二〇一三年五月十九日(日)

時 間：十三時～十六時

一緒に仏具をきれいにしながらお話をしませんか。お気軽にご参加ください。

## ◆本明寺 永代経法要

期 日：二〇一三年五月二十六日(日)

日 程：十三時 永代経法要

十四時 法話

十五時 お齋

永代経法要とは、永代にわたりお経(教え)が大切に受け継がれることを願ってお勤めする法要です。ご家族にもお声かけをし、ご一緒にご参加くださいますようお願い申し上げます。

※お申し込み・お問合せは、お気軽に本明寺までご連絡ください。

◆本明寺 聞法会

期 日：二〇一三年 一月二十七日（日）

※東京教区御遠忌法要に参加

二月十七日（申）

三月三十一日（日）

四月二十八日（日）

時 間：十五時～十七時

お 話：本田 彰一（本明寺副住職）

テ ー マ：親鸞聖人に人生を学ぶ

（親鸞聖人のご生涯を通して教えを学びます）

参加費：500円

一緒に親鸞聖人が歩まれたお念仏の教えに学んでいきましょう。

現在、親鸞聖人四十二才。流罪を許され、越後国から関東に赴き、そこでの民衆との出会いを中心に学んでいます。

多くの方のご参加をお待ちしています。

◆東京教区

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

団体参拝

期 日：二〇一三年一月二十七日（日）

集合時間：十三時

集合場所：練馬駅北口バスターミナル

会 場：東本願寺「真宗会館」

（東京都練馬区谷原一・三・七）

定 員：十名（申し込み先着順）

日 程：十三時 集合

十四時 逮夜法要

十五時五〇分 法話

十六時五〇分 休憩

十七時二〇分 報恩講の夕べ

※日程終了後に練馬駅で懇親会を予定しています。

（懇親会費は実費でお願いします。）

持 ち 物：念珠・肩衣（帰敬式受式者の方）

申込締切：二〇一三年一月二十日（日）

年忌案内	
2013年(平成25年)	
回忌	命終された年
1周忌	2012年 (平成24年)
3回忌	2011年 (平成23年)
7回忌	2007年 (平成19年)
13回忌	2001年 (平成13年)
17回忌	1997年 (平成9年)
23回忌	1991年 (平成3年)
(25回忌)	1989年 (平成1年)
27回忌	1987年 (昭和62年)
33回忌	1981年 (昭和56年)
50回忌	1964年 (昭和39年)
70回忌	1944年 (昭和19年)
100回忌	1914年 (大正3年)

副住職もスタッフとして参加していますので、ぜひご参加ください。

◆湾岸親鸞講座(市民講座)

テーマ: 親鸞の詩―『正像末和讃』に学ぶ―

日程: ④二〇一三年 二月 十六日(土)

⑤ 四月 二十日(土)

⑥ 六月二十二日(土)

講師: 木越康氏(大谷大学准教授)

受講料: 1,000円

会場: 江東区産業会館、他

東京都江東区東陽四・五・十八

東京メトロ東西線「東陽町駅」4番出口横

このような時にお参りします

◆法事

上記の年回忌や四十九日法要など

◆祥月命日

上記の年回忌以外の当月命日

◆月命日

毎月の命日

◆春秋彼岸

春季(三月)、秋季(九月)のお彼岸

◆お盆

七月(都内)八月(都外)のお盆

◆その他の仏事

誕生記念、入学祝い、卒業祝い、成人記念、結婚式、お内仏(お仏壇)安置、入仏式など慶弔を問いません

お参りをご希望される方は、日程、場所(お寺、ご自宅、墓地など)が決まりましたら、一カ月前までにお寺までご連絡ください。ご希望に添えない場合もございませすがご了承ください。

◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、経典 浄土三部経 仏説無量寿経  
仏説観無量寿経  
仏説阿弥陀経
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
- 八、称名 南無阿弥陀仏
- 九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
- 十、宗風 礼拝の生活  
《朝夕に勤行をいたしましょう》  
正信の生活  
《迷信に惑わされないで歩みましょう》  
聞法の生活  
《仏法を聴聞し、生まれた意義と  
生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

▼ 本年もよろしくお願いいたします。  
▼ また政権が代わりました。これから原発再稼働へ向かうのでしょうか。震災当初の原発への危機感はどこにいつてしまったのでしょうか。

★ ご意見・ご感想・ご質問などをお待ちしています。

★ バックナンバーをご希望の方はご連絡ください。すぐにお送りいたします。

発行 真宗大谷派 本明寺  
副住職 本田 彰一（釋 彰一）  
〒130-0012 東京都墨田区太平二・七・一  
TEL 03-3623-1536  
FAX 03-3623-1538  
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp  
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>